**“神に属するものとは？” 2017 10 22**

**マタイ22:15-22 安達牧師**

主の恵みと平安がこの礼拝堂に集まった会衆の心の中に豊かに注がれますように！

ある教会のキッヅトークでこんな会話があった。聖壇の上には10個のりんごがおいてあった。ユースミニスターは一人の子供にボランティアを求め、聖壇の前に立たせた。ミニスターは「ここに10個のりんごがあるが、神様はプレゼントとして君にくださる。」といって、10個全部を袋に入れその子に渡す。

「でも神様が０個になっちゃうから、いくつかは神様にお返ししましょうか。」と言う。子供は、５個聖壇に返した。でもミニスターは聖書には１０個もらったら一個神様にお返しするように書いてあるという話をして、１個だけを聖壇に残してあとは子供に返す。

そうするとびっくりする。「えっ、神さまに返すのはたった一個だけでいいの？　先生の言うことはなんか間違っているのじゃないの？」しかし、ミニスターは「９個を持っていってよい。あなたにとっても十分で、また隣人と分けるように」と話す。

話は変わって、本日与えられている聖書に書かれている出来事の時代背景を説明したい。イスラエルは、政治的にはローマ帝国に占領されてしまった状態だった。　そこに、イエスキリストが現れ、革新的な教えまた偏狭の状態にある病人や悩める人を奇跡的に救われることがおこった。

さまざまな律法を守ることによって、人間は正しいとされるユダヤの指導者にとって、イエスの存在はじゃまものだった。というのは彼等の考えでは偏狭の状態に置かれてしまうのは、自分が律法をちゃんと守らないからだという理論だったからである。ユダヤの指導者はなんとかイエスの言葉じりをとらえて、イエスを死刑に追い込みたかった。

そこで、ローマ帝国の一派であるヘロデ派の人々と共闘を組んで、イエスにわなをしかけた。それは、「ローマ皇帝に税金を払うことは正しいことなのでしょうか？」という質問をしている。なんでこんな変な質問をしたのだろうか？　それは、あきらかにわなだった。というのはイエスが「正しくない」と言ってくれれば、ローマ皇帝から白い目でみられて、ローマの軍隊がイエスを死刑にする。　また逆に皇帝への税金を払わないといけないというならば、それは神に背くものという理由でイエスを追求できるともくろんだ。

イエスは彼らの下心を見抜いた上で、彼らの質問にはすぐに答えない。逆に質問をして対話をつなぐ。まず銀貨をもってくるようにといい、「だれの肖像と銘が刻まれているか？」と質問する。

そこにはローマ皇帝の肖像と銀貨が皇帝発行のものであることが刻まれていたので、彼等は、「皇帝のものです。」と言う。そして、イエスはついに答を述べるが、イエスの答えはかならずしも私たちがすぐに喜べる答えではない。「皇帝のものは皇帝に」という答えられた上に、さらに「神のものは神に返しなさい。」と言われた。

この質疑応答の中には、私たちにいろいろなことを教えられると思う。三つほど述べたいと思う。第一に、ユダヤの指導者のたくらみを見事にかわしている。　ローマ皇帝へ税金を納めることの大切さだけを話したわけではなく神に献げる大切さを述べらた。ローマの政治をつかさどるものも、宗教指導者も、このイエスの答えを理由にはイエスを死刑などには追い込めない。

二つ目には、皇帝のものは皇帝に、神のものは神にと話すことで、政教分離の大切さを教えられているという解釈もできるのかもしれない。

しかし、政教分離という考え方はもっと近代的な話である。わたしは「神のものは神に返しなさい。」というこの一言には、人類の根源的かつ普遍的、また全宇宙をも包括してしまうような大きなメッセージが含まれていると思う。

そこで三つ目の教えについて考えたい。「神のものは神に返しなさい。」と言われた人類は、「神のものって一体何なの？」また「また神に与えられたものの何をどう返すか？」と自問自答する必要がある。考えてみてほしい。　今日、日曜の朝がみなさんに来た。ここにいる全員にまちがいなくきた。この朝はだれのものでしょう。

このすばらしい日曜の朝というものは、人間が努力して創りだすことができるものではない。あるいは時間も。私たち人間は何をするにしても、時間の経過とともに人生を歩んでいるが、この時間というものだって人間が作りだしているものではない。人間はもっと時間を作り出すことはできない。一日は24時間である。

もちろん「もっと時間をとって宿題をしなさい。」と親や先生が子供にいうことがあったとしても、それは子供が時間を創造するのではない。生きている時間は神が私たちに与えられたもの。与えられた時間の中で、人間は何々をしようといって行動している。私たちは時間を創造できるものではなく、創造者なる神が全宇宙と時間と空間を創り出してくださった。

もう少しやさしい概念について考えよう。地位、友人や家族、暮らしを考えたらどうだろうか？　みなさんがそれぞれに努力した結果であるということはいえると思う。

しかし、努力するにいたって、両親の存在、両親の努力もあり、また先祖の、あるいは友人の、すべて神が創造された命があったから努力も可能になった。それらの神の作られた周りの存在があって、あなたの努力も可能になった。あなたしかいない独特な体も、遺伝子も、性格も、そして育っていく地球環境も神が創ってくださった。

いっさいのことが神無しには存在していない。言い換えるなら、すべては神に帰属している。

今日のメッセージは、最後に二つの質問をして終わりたい。これはアンディテイラー主教に質問されたことなのだが： 1. 現代の忙しい時代にあって、神が私たち与えてくださった時間に感謝するため、あなたに与えられたどのような時間をお返しするように神から求められているのだろうか？　2. さまざまなことが同時進行で進む現代の世の中にあって、神があなたのためにしてくださったことに感謝するために、あなたに与えられたどのような才能・財宝をお返しするように神から求められているだろうか？